

国民文化祭基本構想検討委員会（第1回） 概要

日 時：令和6年1月23日（火）10:00～11:10

場 所：高知県立公文書館 3階会議室（高知市丸ノ内1丁目1番10号）

出席者：＜委員＞

宮田委員長、鎌倉副委員長、川田委員、笹岡委員、新納委員、藤原委員、古谷委員、
松本委員

＜事務局＞

＜議題＞

- （1）国民文化祭等の概要について
- （2）基本構想（案）について
- （3）統一名称（案）について
- （4）その他

＜委員からのご意見：基本構想（案）について＞

委員	<p>資料1で「多彩なプログラムを実施」とあるが、基本方針の中では「イベント」という言葉が多く使われている。「プログラム」というのは、組み立てられて、今やっていることが後につながるという印象があり、そのことも考慮してほしい。「イベント」は単発的な催しの印象が強い。国民文化祭の基本方針で使用することに違和感を覚える。</p> <p>基本方針④について、観光客を呼び込むだけでなく、移住とかにつなげて、高知県の人口減少対策につなげる必要があると思うので、その旨を基本方針に盛り込んだ方が良いと思う。</p> <p>基本方針⑤について、障害者手帳を持っている方が障害者というわけではなく、社会が障害を生み出している場合もある。例えば、ひとり親で子どもを育てている人は、家庭と学校以外で社会との接点がないといった現状もあると思う。そのような状況がある中で、基本方針①のとおり「すべての県民が主体的に参画する文化の祭典」とするのであれば、⑤文化芸術を通じた相互理解の促進で「障害のある人とない人」だけを記載することに違和感を覚える。</p>
委員	<p>県外への人材流出の問題もあるため、「郷土の魅力を再発見する」「郷土愛を育む」といったことも基本方針の中に盛り込む必要があると思う。</p> <p>国民文化祭を契機に体験プログラムなどを発展させることで、来県される外国人の長期滞在につながると思うので、基本方針の中には「国際交流」の視点も必要ではないか。</p>

委員	<p>国民文化祭の予定会期（10月～11月）は、観光のハイシーズンにあたり、さらに開催年度は令和7年の関西万博や「あんぱん」などの影響で例年以上の観光客が見込まれることから、宿泊施設が不足するのではないかと心配している。</p>
委員	<p>開催意義の書き出しについて、「～豊かな自然に恵まれています。」と「～県民性を育んできました。」が、意味がつながっていない。</p> <p>基本方針②について、食文化や伝統工芸がキーワードであるはずなので、「食文化」「伝統工芸」とした方が良いのではないかと。また、③について、「伝統芸能」とした方が良いのではないかと。</p>
委員	<p>開催意義の8行目から10行目について「発展」が重複しており、13行目から14行目についても同様に「つながり」が重複している。また、18行目から19行目にかけて「一人ひとり」であり、「そして」は不要ではないかと。</p>
委員	<p>基本方針について、先催県と比較してみると、街づくりや社会づくりといった視点が欠けているように思う。</p>
委員	<p>先ほど他の委員から国際交流に関する話があったが、県内在住の外国人が増加しているため、高知県で暮らす外国人を国民文化祭に巻き込むことができれば、さらなる盛り上がりにつながると思う。</p>
委員	<p>基本方針①について、「すべての県民が主体的に参画する文化の祭典」とあるが、主体的に参画するには、人とつながる喜びや郷土愛などを醸成する必要があると思う。書き出しにある「多彩なイベントを県内全域で展開」することで主体的になるのか、主体的だからこそ多彩なイベントが展開できるのか、分かりづらい表現になっているように思う。</p>

<委員からのご意見：統一名称（案）について>

委員	<p>「高知家文化祭2026」について、近年多く使用され、県民にも浸透している「高知家」というフレーズを入れることで、障害の有無や国籍の違いに関わらず、家族による文化祭という印象を与えることができると考え提案した。</p>
委員	<p>「みんなのこうち文化祭」について、基本方針の中で県民が主体的に参画することや、障害のある人とない人が交流すること、多くの観光客を呼び込むことが書かれており、高知に来た人はみんな家族であり、誰もが参加できる文化祭という印象を与えることができると考え提案した。</p> <p>「たるばあ高知文化祭」について、高知の魅力や文化を沢山知ってもらいたいという意味を込めて、土佐弁を使った名称で提案した。</p>

委員	「自由の国」や「維新の国」といったフレーズを用いることも考えたが、「高知家」の方が平成から令和にかけてバージョンアップした高知県をアピールできるのではないかと感じた。
委員	統一名称については、誰が聞いても開催県と結びつくようなフレーズを入れた方が良いと思う。「よさこい」については、これまでも多く使用されているため、統一性がある。あくまでも国民文化祭の統一名称であるため、特定の文化の大会と受け取られる心配をする必要はないと思う。 「志国こうち文化祭 2026」について、「お志国」とすれば、柔らかい印象を与えることができると感じた。
委員	高知県における伝統や文化の形成には、海・山・川が大きく影響していることから、「海・山・川が育む高知国民文化祭 2026」を提案する。
委員	参考までにお伝えすると、和歌山大会と岐阜大会は、全国高等学校総合文化祭と同年度に開催されることから、国民文化祭と同じ名称を使用している。 「よさこい」については、継続性があり、近年では北海道のイメージが強まっているように感じるため、高知県に取り戻すためにも良いのではないかと。
委員	「よさこい」については、高知県のイメージが強く、世界的にも波及しており、発祥の地としてアピールするためにも統一名称に使用することは良いのではないかと。
委員	これまで多く使用されてきた「よさこい」を継承することも一案だと思う。また、ご提案のあった「みんなのこうち文化祭」や「オール高知家文化祭」など、新たな名称を打ち出すことも良いと思う。
委員	「高知家文化祭 2026」について、開催地名が含まれているという扱いで良いのか。
事務局	文化庁へ確認する。

<委員からのご意見：その他>

委員	キャッチフレーズは、全国公募を行うのか。また、くろしおくんのアレンジについて、委託を行うのか。
事務局	キャッチフレーズは、全国公募を予定している。なお、くろしおくんのアレンジについて、委託を行うが、委託先は今後検討する。
委員	開催準備計画とかをアウトソーシングすると思うが、くろしおくんのアレンジやロゴマークも一括発注するイメージか。
事務局	開催準備とは別に発注予定。